# 教科書作成におけるコミュニケーション言語能力を養成するための方策
# 『まるごと　日本のことばと文化　理解編』の場合

来嶋洋美　（独）国際交流基金日本語国際センター

## 『まるごと　日本のことばと文化』

- 「JF日本語教育スタンダード」準拠教科書
- JF日本語講座コースブック（各国JFで試用中）
- 学習者：海外の成人学習者
- レベル：入門（A1）、初級1・2（A2）
- 開発理念：相互理解のための日本語

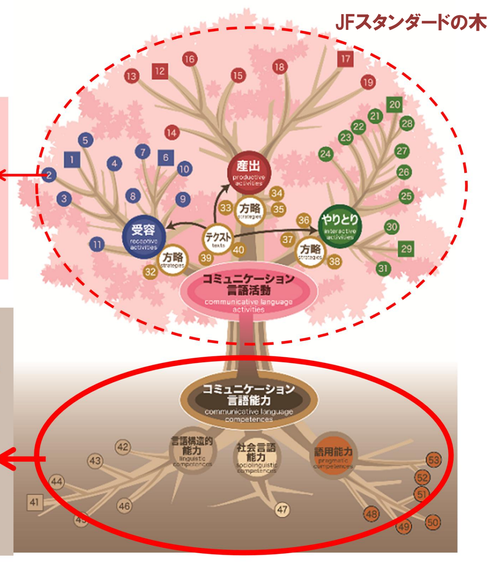
**●課題遂行能力**
日本語を使って何ができるか
→JFS　言語能力、言語活動

**●異文化理解能力**
さまざまな文化に触れることで
いかに視野を広げ他者の文化を理解し尊重するか

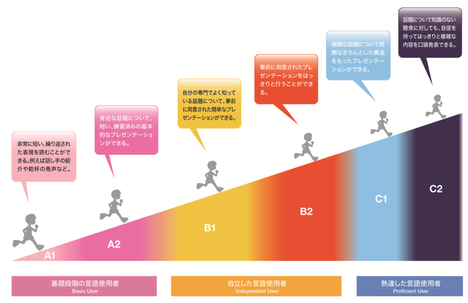
## JFスタンダードと　2つの『まるごと』

言語能力を使って、様々な言語活動を行う
「活動編」

言語によるコミュニケーションのために基礎となる言語能力を養う
「理解編」
主に言語構造的能力と社会言語能力




## JFスタンダード/CEFR 熟達度




Aレベル（基礎段階の言語使用者）のレベルイメージ
- ●具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる
- ●自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる
- ●もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりができる

『まるごと』入門　理解編
トピック3　たべもの
だい6か　どこで　たべますか

教科書本文は
都合により削除しました。

## 『まるごと』理解編　課の構成

①とびら
トピックと基本文型の紹介

②もじとことば
勉強する前に
1 ・・・・
2 ・・・・
3 聞いて書く
4 漢字

③かいわとぶんぽう
1モデル会話
2文法の構造図
3聞きましょう

④かいわとぶんぽう
1モデル会話
2文法の構造図
3聞きましょう
ペアで話しましょう

⑤どっかい
コミュニカティブな読み

⑥作文
文字を写す
モデルにそって短いテキストを書く

日本語チェック：学習の自己評価
チェックリストあり

## モニター調査で得た教師からのコメント

（２０１１年２~３月 実 施）
- 文型練習のチェックにCDを使う点がとても良い。
- いろいろな形で4技能の練習ができた。
- 学習初期からトピックを共有した読解、作文、漢字が含まれていることは画期的。
- 読解はゼロレベルの学習者にも推測できたので、衝撃的だった。
- 漢字を意味で捉えていく導入は学習者にもすんなり受け入れられ、目から鱗だった。この漢字の扱いはコミュニケーション運用能力の育成の1つになっていると思う。

## まとめと今後

- トピック→学習者に合ったコミュニケーション場面→会話→学習項目決定→トピックに関連させた練習：課全体として内容的なまとまりがあり、学習しやすさにつながる。
- 文化を意識したテキスト：学習動機を高めること、維持することが期待される。
- 活動編との相互補完的な使用によって、より効果的な日本語学習をすることができる。
- 2012年9月末「初級2（A2）」（試用版）刊行予定。

【参考文献／ウェブサイト】
- 国際交流基金(2010)「JF日本語教育スタンダード2010」
- 来嶋洋美・柴原智代・八田直美(2012)「JF日本語教育スタンダード準拠コースブックの開発」『国際交流基金日本語教育紀要』第8号，pp.103-117
- JF日本語教育スタンダードとは
  http://jfstandard.jp/summary/ja/render.do
- 第17回海外日本語教育研究会「JF日本語教育スタンダード」準拠教材『まるごと 日本のことばと文化』--その理念と概要--
  http://www.jpf.go.jp/j/urawa/news/news_1204.html

## 『まるごと』理解編　コミュニケーションにつながる言語能力養成のための方策

### 1　会話のための文型・文法
- コミュニケーション課題（Can-do)を遂行するための会話（活動編シラバスとの連関）
  →文型選択基準：具体的使用場面を想定した上での必要性、自然さ
- 導入会話　使用場面＝文脈
- 海外学習者の日本語使用場面として無理のないもの

### 2　トピックが課全体をカバー
- 各課の内容のすべてが、1つのトピックに関連付けられている。
- 言語構造や語彙を、言語活動が行われる文脈の中で、意味のまとまりを持たせながら学習できる。

●トピック　入門（A1)
1 にほんご　2 わたし
3 たべもの　4 いえ
5 せいかつ
6 やすみのひ1
7 まち　8 かいもの
9 やすみのひ2
※「活動編」と共通

### 3　音声を取り入れた文型練習
例　CD（会話）→会話内容の再構成→答える
CDチェック（聞いて答えあわせ）
- 言語活動につながる言語能力養成のために音声を通した学習は必須。
- 海外学習者に不足しがちな聞く活動をできるだけ多く取り入れる。

### 4　入門時から「どっかい」「さくぶん」
- 言語項目の運用例をモデル会話のほかにも、一定の長さの文脈で示す。
- 「どっかい」：情報照合、同じ流れで使用語の違う複数のテキストの読み、問題解決等
- 「さくぶん」：提示されているモデルをなぞる（文字練習）、モデル文に自分の情報を入れて、単文を連ねて書く。
- 文字学習の考え方：「音が文字に先行する」
  →　語単位で正しく読めることを優先

### 5　相互理解のための文化学習
「ことばと文化」 理解編　初級1（A2）から

はじめて会った人にどんな　しつもんをしますか。
aかぞくは何人ですか。
b子どもはいますか。
cなんさいですか。
dどこに　すんでいますか。
eどこで　はたらいていますか。

→自分の文化ではあたりまえとされことを捉えなおし、内省/意識化する
→多様な価値観を知り、判断留保する

1.はじめて会った人と話すこと　2.道で誰かに会ったとき
3.待ち合わせに遅れるとき　4.嫌いな食べ物を勧められたとき
5.日本語をほめられたとき　6.プレゼントをもらったとき

【関連ポスター発表】
第3セッション15:40―17:40　第2会場　A562
「Can-do中心の新しい日本語教科書
『まるごと　日本のことばと文化　活動編』」

＜2012年日本語教育国際研究大会　2012年8月18日　名古屋大学＞